

中学校統合事業の進捗状況などを皆様にお知らせするため「Hello New School 中学校統合だより」を発行しています。お知らせしたい内容をまとめ、随時お届けしています。印南町公式ホームページにも関連情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

新しい中学校の校名案が決まりました！

－統合委員会の審議を経て「いなみ中学校」を最終候補に－

町内4つの中学校を統合し、高台に新設する新しい中学校の開校に向けて準備を進めていますが、このたび、みなさまからご応募頂いた134通もの校名案について、統合委員会の慎重な審議を経て、最終候補を1つに絞り込みました。その最終案は「いなみ中学校」です。

新中学校の校名には、印南町の新たな教育の拠点にふさわしい、町名を冠した、かつ新たな出発をこれまでにない平仮名で表した「いなみ」が選ばれました。町内の中学生が一堂に会して学ぶ新しい学校に、印南町の名を掲げることは、地域の一体感を象徴し、町民みんなで子どもたちの成長を見守っていくという強い思いを表しています。また、生徒一人ひとりが、生まれ育ったまち印南町に誇りを持ち、成長し、新たな未来に大きく羽ばたいて欲しいとの願いが込められています。

今後、印南町議会の議決を経て正式に校名が決定されます。

【校名の候補決定の経緯】

公募の期間 令和7年8月1日～令和7年8月29日

応募の総数 134通（全86種類）

第一次審査 令和7年9月30日（校名選考委員会）

第二次審査 令和7年11月27日（統合委員会において最終校名案を決定）

町長に報告 令和7年12月8日（統合委員会から町長に最終校名案を報告）



町長に報告書を手渡した森川委員長(中)と大江副委員長(右)

■通学にはスクールバスを運行します



新中学校では、校区が町内全域と広くなることから、多くのエリアにおいて、登下校の為のスクールバスを運行します。

通学距離、登下校時の安全確保、統合による通学距離の増加、又は通学路がこれまでの校区外に変わることへの配慮の必要性などを勘案し、現在の「稲原・切目・清流」中学校区についてはスクールバスを運行し、印南中学校区については自転車（徒歩）通学とします。

通学ルートの詳細については、今後、保護者・地域の皆様に十分な説明を行いながら、安全に通学できるルートを決定していきます。

■造成事業の進捗について



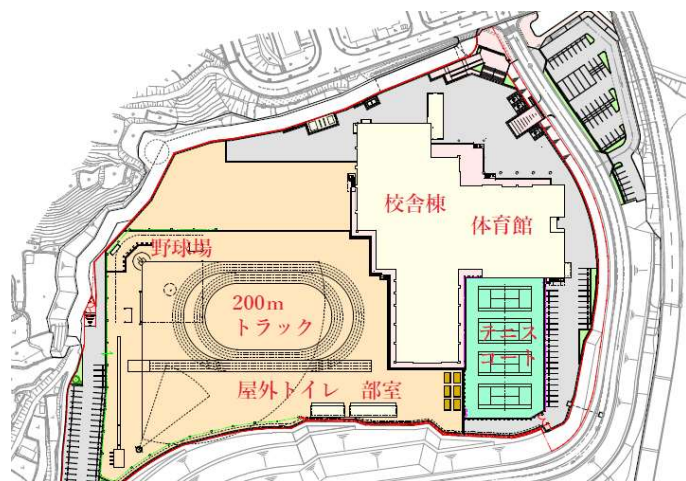
造成事業は順調で、敷地の法面、通学道路ができてきています。造成事業は今年度で概ね完了する見込です。

■いなみ中学校（仮称）の設計が完了しました

新中学校の設計業務が完了しました。新中学校は、鉄筋コンクリート造の2階建てとし、広々とした敷地に十分な広さの校舎を建て、子どもたちがのびのびと学習できる環境で、かつ避難所機能や自家発電設備など、防災機能を備えた校舎を目指します。学校統合のコンセプト『1人1人を大切に。いなみから国際化へ～学校・地域の活気とICT、英語教育の充実による人材育成～』に基づいて作られた設計をもとに、令和8年度から9年度の2ヵ年で、建設工事を進めていきます。（詳細は裏面）

新しい時代の学びを実現する「いなみ中学校（仮称）」

| いなみ中学校（仮称）の概要 | |
|---------------|---|
| 敷地面積 | 約35,000㎡ |
| 階層・構造 | 鉄筋コンクリート造2階建（校舎・体育館） |
| 施設の構成 | 校舎棟（体育館棟）、屋外トイレ棟、部室棟 野球場、テニスコート（4面）、200mトラック |
| 延床面積（校舎） | 6,468㎡（1F:3,710㎡ 2F:2,758㎡） |
| 延床面積（体育館） | 2,866㎡（1F:1,923㎡ 2F:889㎡ 地下:54㎡） |
| 主な防災機能 | 体育館（避難所）、給食調理室（500食規模）、自家発電設備、雨水貯留槽、太陽光発電、防災備蓄倉庫、屋外トイレ、節水トイレ、マンホールトイレ、かまどベンチ等 |



敷地内配置図

■個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、柔軟で創造的な学習空間

個別学習や少人数学習に柔軟に対応できる空間として、図書室と繋がる「ラーニングコモンズ※1」を整備します。自習スペースやグループ学習ができる机などを配置し、またコモンズ内の様々な場所に図書を配置し、いつでも本を手に取り学習できる環境を整備します。

■新しい生活様式を踏まえた、健やかな学習・生活空間

全校生徒が一同に利用できるランチルームや、生徒の居場所となるリビング空間（生徒ラウンジ）、大階段を整備します。

また、エレベーター、ドライ方式のトイレなどユニバーサルデザインに配慮した環境を整備します。

■発想から形へつなげる、探求・創造力を育む教育環境

各部屋に電子黒板や無線LANを完備し、さらに、PCブースを備えた創造型（ものづくりの探求）の技術室、ミニコンサートが可能な広い音楽室など充実した教育環境を整備します。

■体育・部活動・地域スポーツを支える総合的な運動環境

両翼80mの野球場、直線で100mがとれるグラウンド、4面のテニスコート、2階に観客席を備えた体育館など、十分な規模を備え、地域にも開かれたスポーツ環境を整備します。

■子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境

学校は標高42mの高台に建設し、広い敷地と校舎でのびのびと学習できる、安全・安心な教育環境を整備します。

■地域の生命と暮らしを支える、安心の防災拠点

体育館は大規模災害時に地域の避難所として利用し、また給食室とランチルームは、災害時には500人規模の炊き出しに対応できる設備を備えます。また、自家発電設備、雨水貯留槽、防災備蓄倉庫など防災拠点としても機能する学校を整備します。

■脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境

外壁などの高断熱化、太陽光発電、雨水利用、内装の木質化など、ZEB（ゼブ）化※2を推進し、エコな学校を実現します。

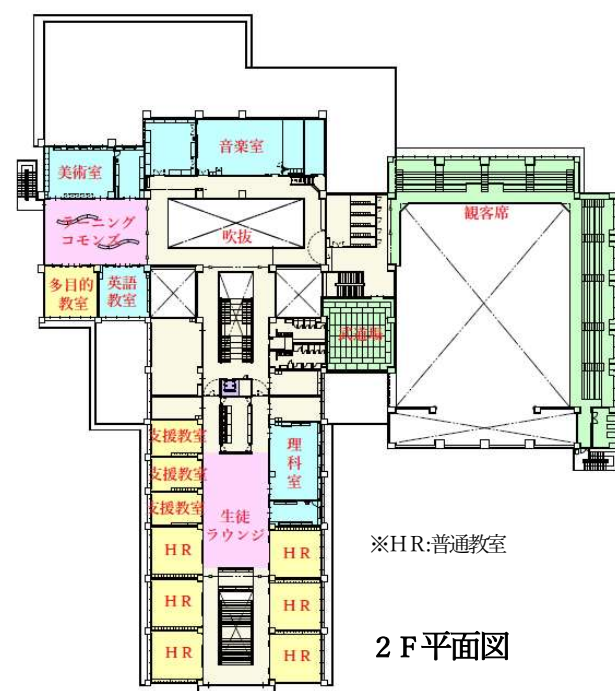
※1 ラーニングコモンズ:個別の調べ学習やグループ学習など、目的に応じて自由に学べる共有型の学習空間。

※2 ZEB:建物の省・創エネにより、年間一次エネルギー消費を0に近づける考え方。



※光庭（ひかりにわ）: 建物の内部に自然光を取り入れる為の中庭状の空間

1F平面図



※HR:普通教室

2F平面図